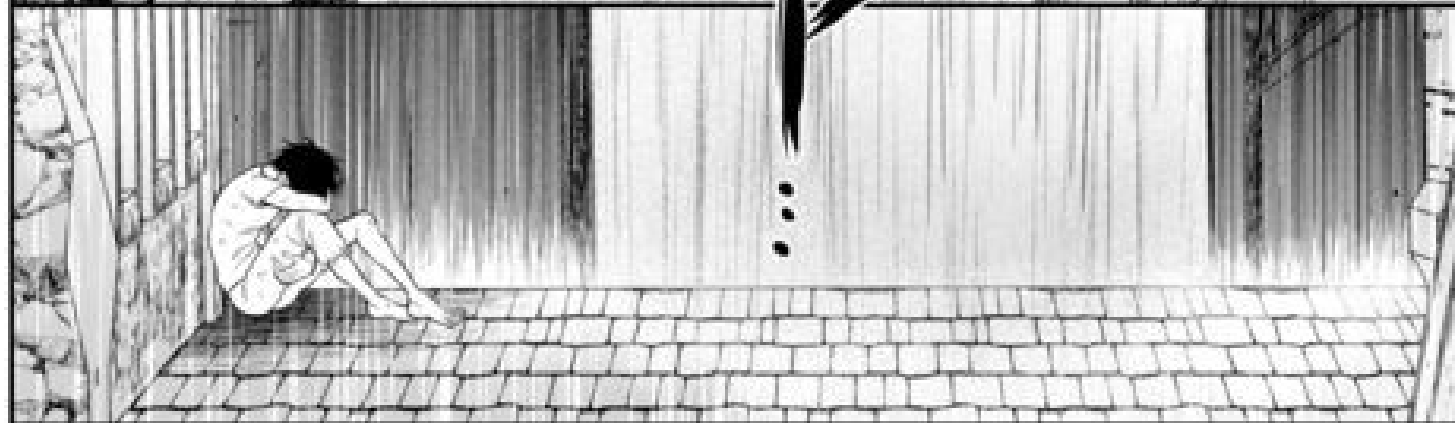
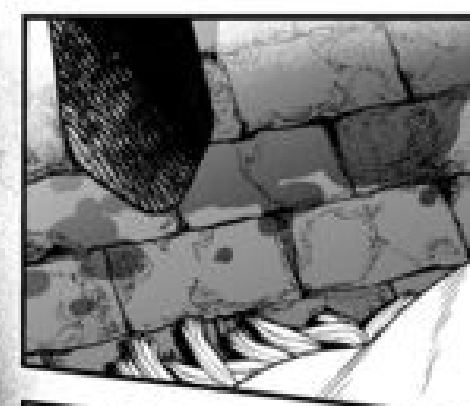


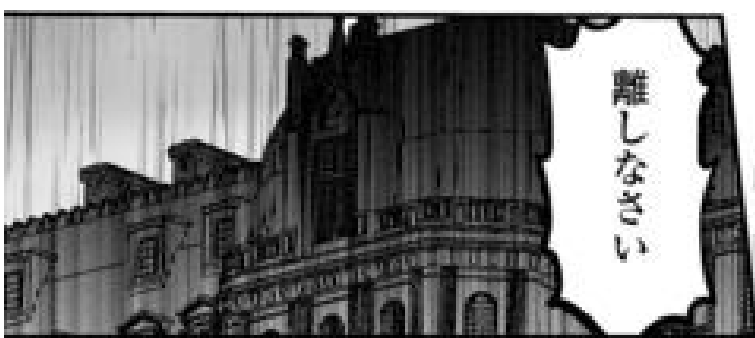


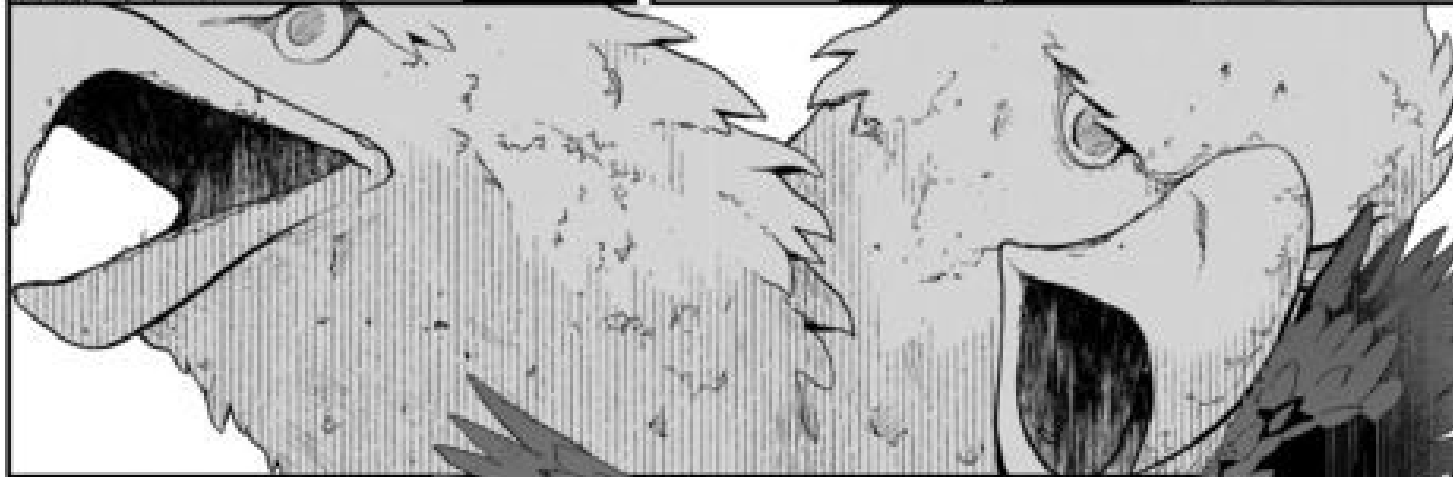




私の大切な宝物…
ロシェイン









警備隊……？

いくつか
質問に答えて
頂こう……

王都の
警備隊に
引き渡す前に



コンスタンツェ・
ジェノヴァ……

あなたに
聞きたい
ことがある



一体……
私が何をしようと
言うのです

このような
仕打ちを受ける
心当たりは……



ずいぶんな
言い草だな……



目撃者が
いないと
踏んで

しらばっくれる
つもりだろうが……

な……んで……





この
忘々しい
魔族が…!!!

生まれた
あの時に

やっはり
殺しておく
べきだったわ

フッ…

そうだな…



だが

あなたは
失敗した

クリ…

次の機会は
ないし…

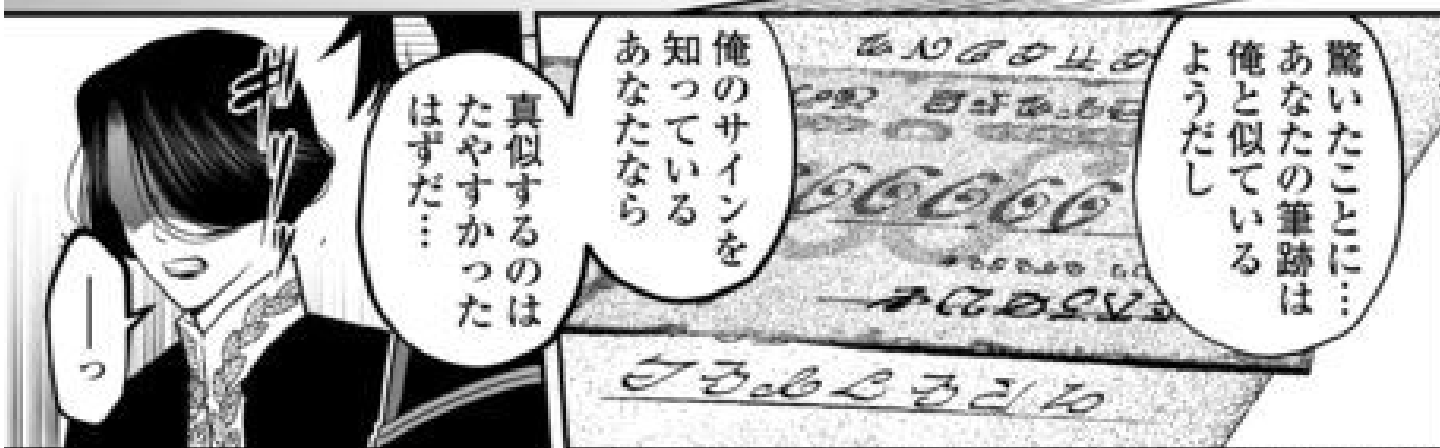
クリ…



俺への呪詛は
じゆそ

もう
聞き飽きた…







何なの……？



……何……



あなたの
焼いたクッキーが
好物だとも……



あなたの
息子は可愛いな

ロシユイン……

「宝物」と
いう意味だと
彼が教えて
くれたよ



これは今……
別室にいる
あなたの息子の
様子を映している



菓子を
食べてもらおうと
思っている

ロシユイン

やめなさい！

それに
手をつけては
だめ

ロシユイン

無駄だ…

こちらの声は
届かない

取引だ
コンスタンツェ

家宰に
関することを
洗いざらい
話せ

……



三年前…



夫の事業が
うまくいかず

死に物狂いで
金策に走って
いた頃…



あなたと
顔を合わせた
夜会で…

ネル家の子息と
出会ったの



そして……

あなたと
辺境伯の仲を
教えて
くれたのも
彼だった



当時の彼は
一介の騎士に
すぎなかった
けれど……

彼だけが
融資を
してくれた



——母親が
苦境にある
時に……



それで
いいのか……？



息子は
辺境伯家の子息を
たぶらかし

その
庇護のもと

何不自由なく
暮らしている
ときた……

それで俺に
金を要求して
きたのか

ええ…

辺境伯家の
家幸にも

お金を用立て
なければ

あなた達の
関係について
暴露すると
話したら…

あなた達が
別れることを
条件に

手切れ金を
支払うことを
約束して
くれた…

そうして得た
お金で

しばらくは
生活できた
けど…

夫が
亡くなって再び
苦境に陥り

どうしようも
なくなつて…

融資してくれた
ネル家の子息が
伯爵位を継いだ
ことを知って

彼を頼って
会いに
いったわ…

そしたら…



二人の
不穏な会話を
聞いて……



偶然……

ネル伯爵と
辺境伯家の
家宰が

人目を忍んで
会っていたの……



口止め料を
要求したわ

話の内容を
辺境伯に
暴露すると
脅して



けれど……
それだけでは
足りなくて……





それで…
もう一度
金をせびった
挙句…
殺したと？

違う！

あつちが
私を殺そうと
したのよ



短剣を
抜いた彼と
もみ合っ
て
いるうちに…



私は医者
を
呼ぼう
と思
った

だけ
と
その
時…



偶然
居合わせた
ネル伯爵に
捕まって…



これが
全てよ…

もういい
でしょう



早く
ロシュインを
解放して！

……



近くの木陰に
待たせていた
ロシュインと共に

屋敷に連れて
行かれ…

そのまま
監禁された
のよ…







...れば...





一体…



いつになれば…

この呪いは
終わるの……